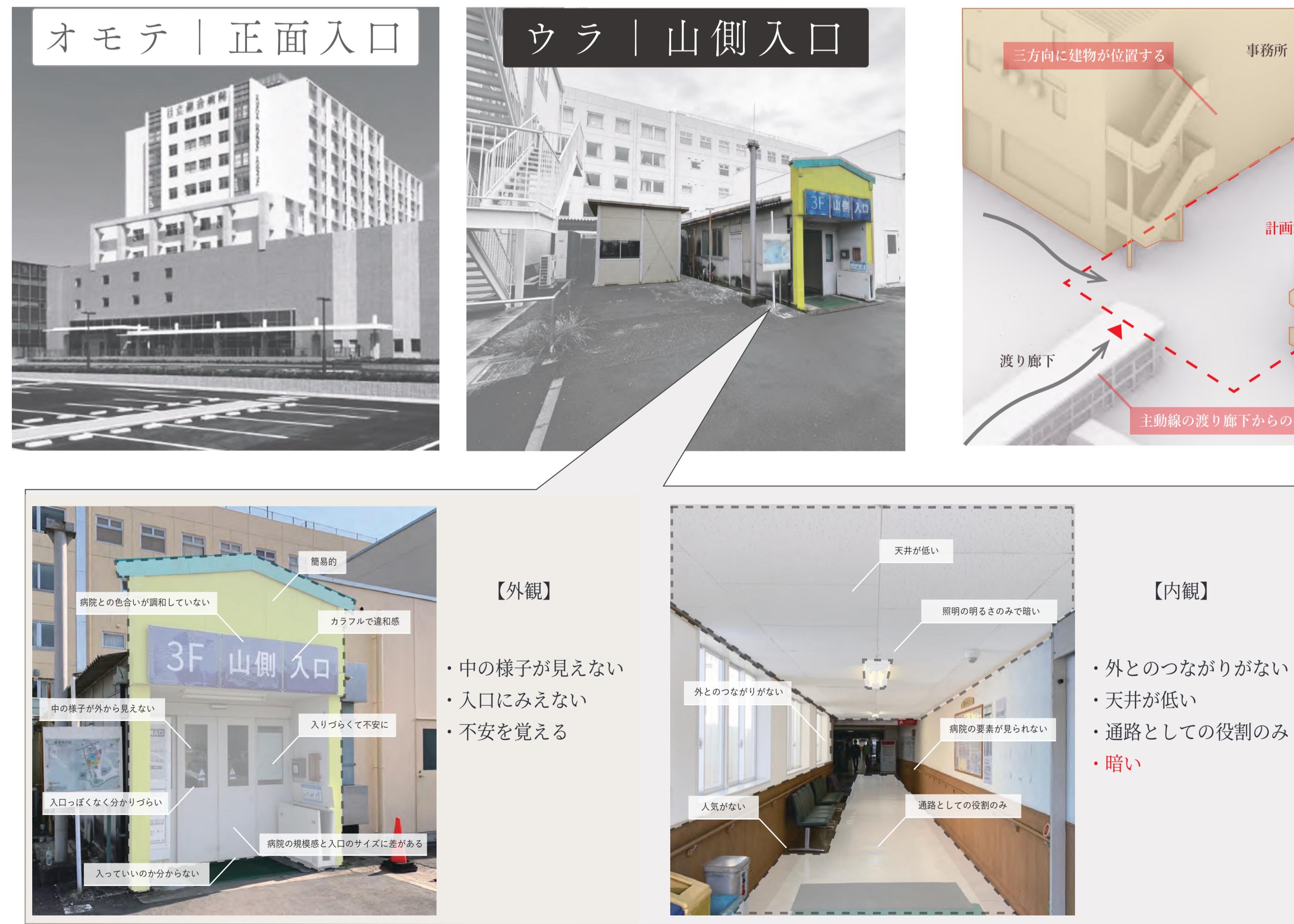


病院ウラの小さな再編



01 敷地環境

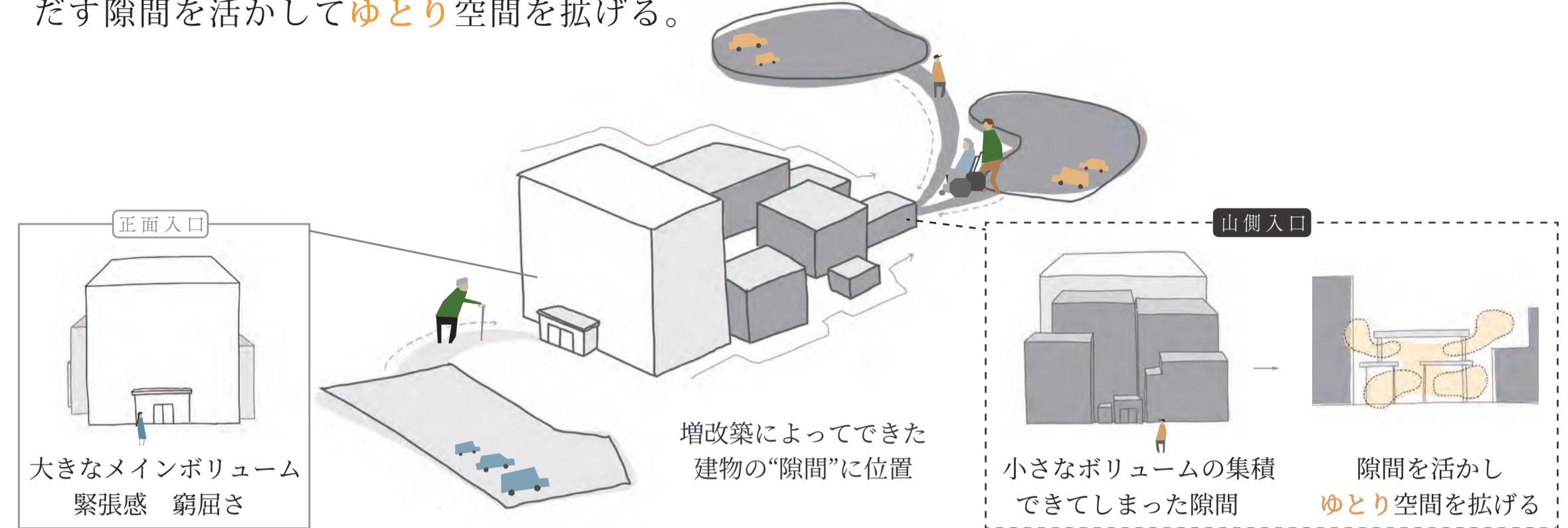


総合病院のサブエントランス改修計画。増改築に伴う大小のボリュームと隙間でつくられた病院の裏側を再編する。医療の高度化によって機能が集積した病院に医療機能以外の「ゆとり」をもった空間を創出する。暗く窮屈な隙間空間に、外部の隙間を取り込みながら明るく快適なエントランス空間を設計する。大きなスケールの病院のオモテに対して、ヒューマンスケールの隙間を持つウラに着目した提案である。

02 コンセプト・設計手法

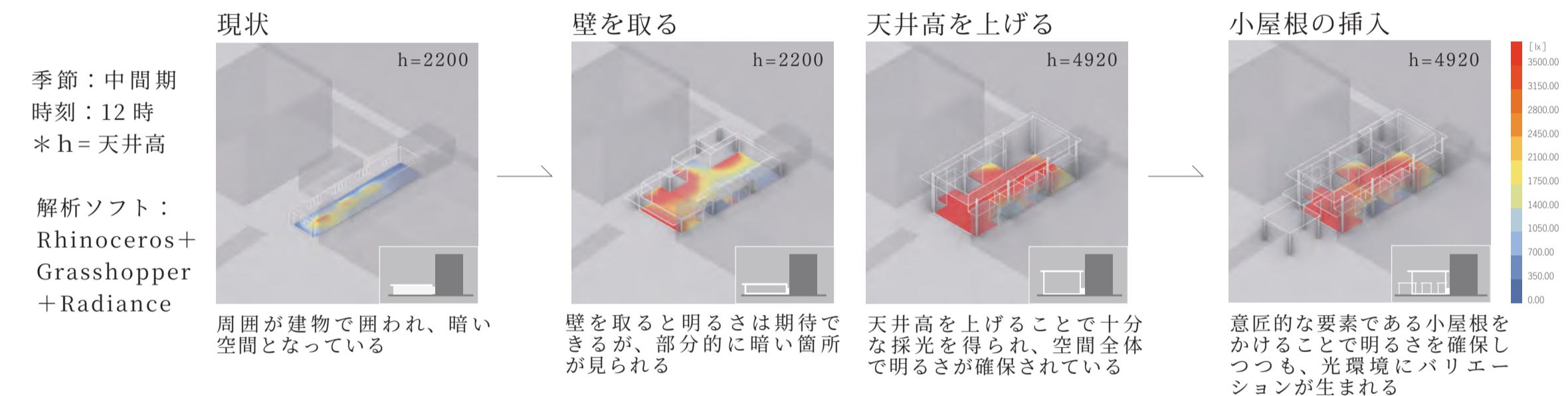
ウラの“隙間”を活かしたゆとりの拡張

総合病院では、医療の高度化から増改築が進む。尊厳や信頼が重要となる病院建築では“オモテ”的なファサードに重きが置かれるため、“ウラ”に次々とボリュームが増改築される。ウラがつくりだす隙間を活かしてゆとり空間を拡げる。

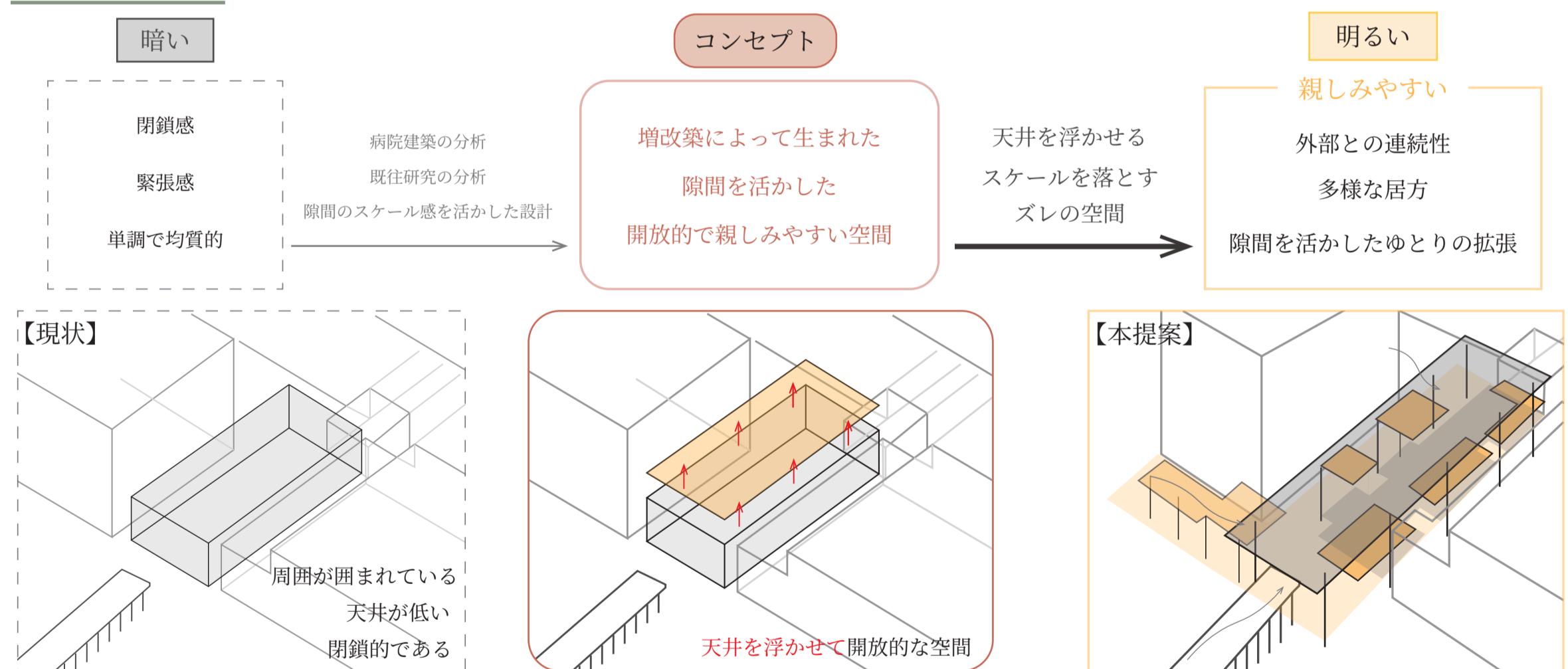


光環境シミュレーション

3方向が建物に囲まれた敷地における周辺環境を取り込むための形態のスタディとして、照度シミュレーションを行った。



設計手法



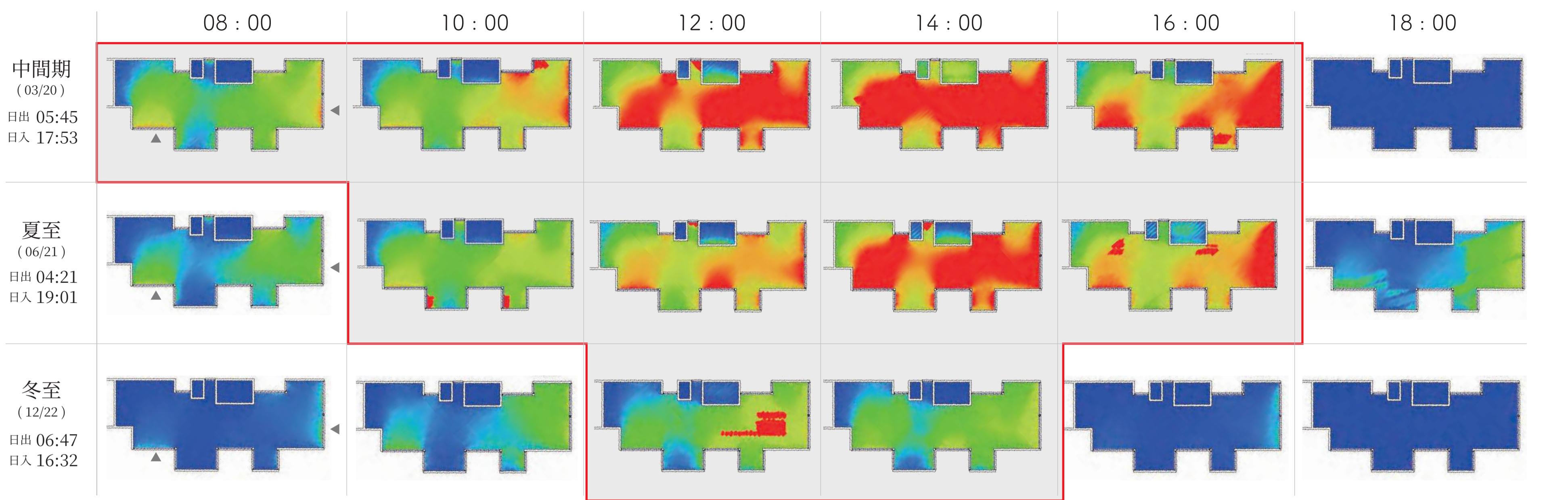
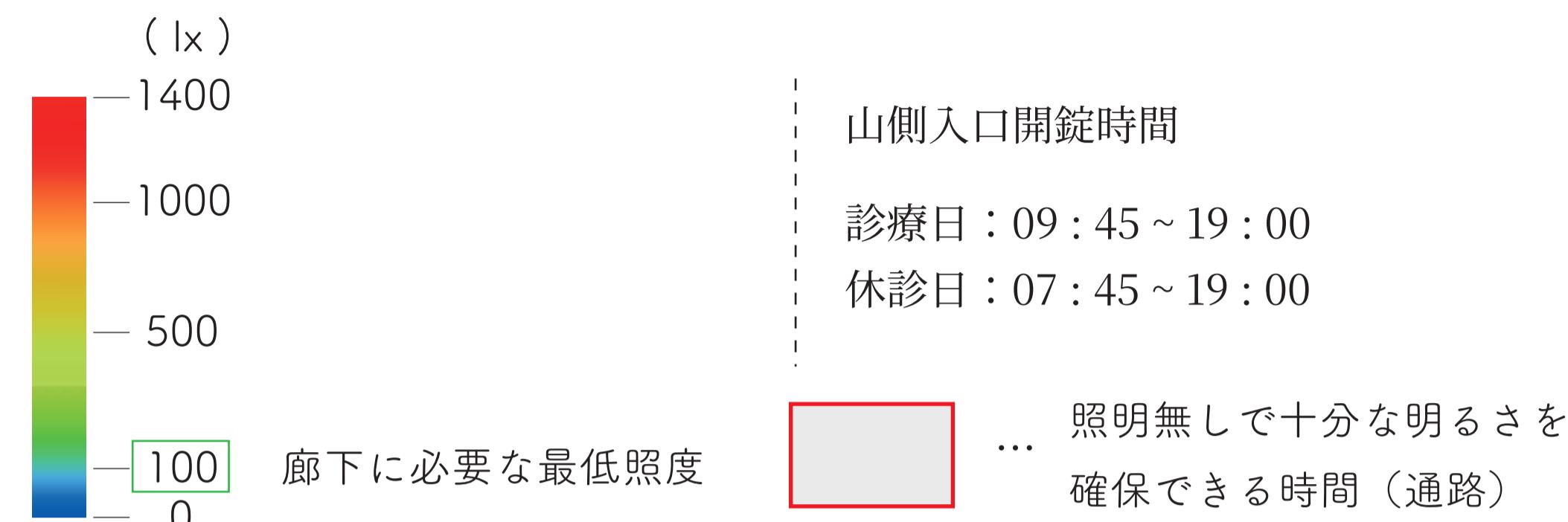
隙間を取り込み、ゆとりを拡げる

ボリュームの集積が生んだ隙間は、閉塞的な病院空間において「ゆとり」を生み出すポテンシャルとなる。複数の周辺要素のスケールを屋根から小屋根、家具へと段階的に操作し、小屋根で分節された隙間を内部空間に取り込み、多様な「ゆとり」のある過ごし方の選択肢を提供する。



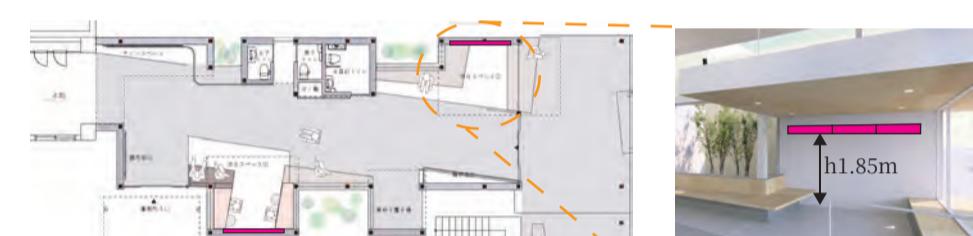
03 自然光の活用

天井を上げ、光を取り入れたことにより、中間期・夏期の日中において自然光のみで十分な明るさが確保できており、滞在スペースにおける最小限の照明のみで快適に過ごすことができる。



04 室内環境シミュレーション

【ルームエアコン設置箇所】

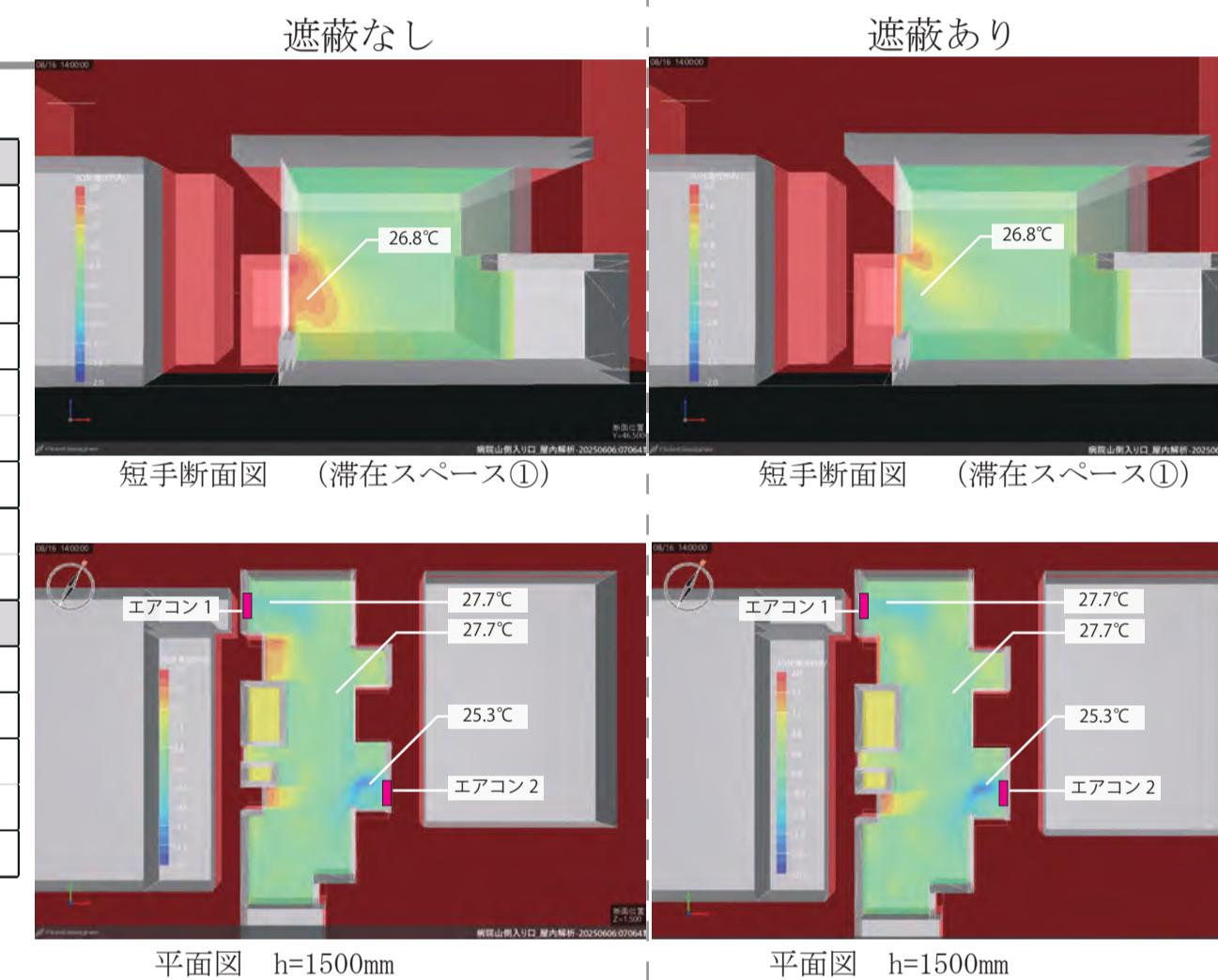


長時間の滞在が想定される滞在スペースにおける、最小限のエアコン設置によって、どの季節も快適に過ごすことができる。

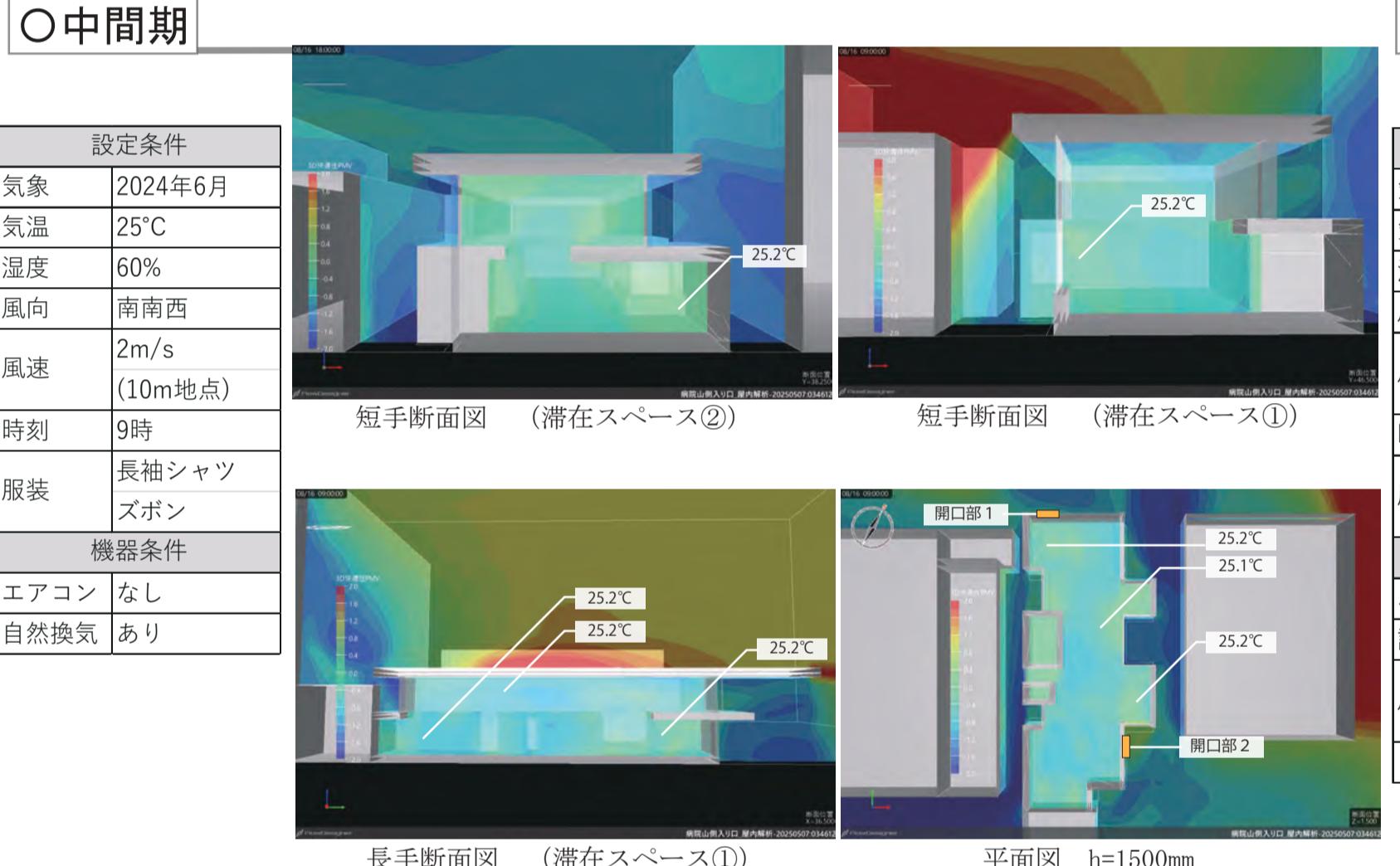
夏期は、日射を遮蔽することで快適性を維持できることから、滞在スペース①の面する中庭に高さのある樹木を配置する計画とした。

±1.0
やや快適範囲

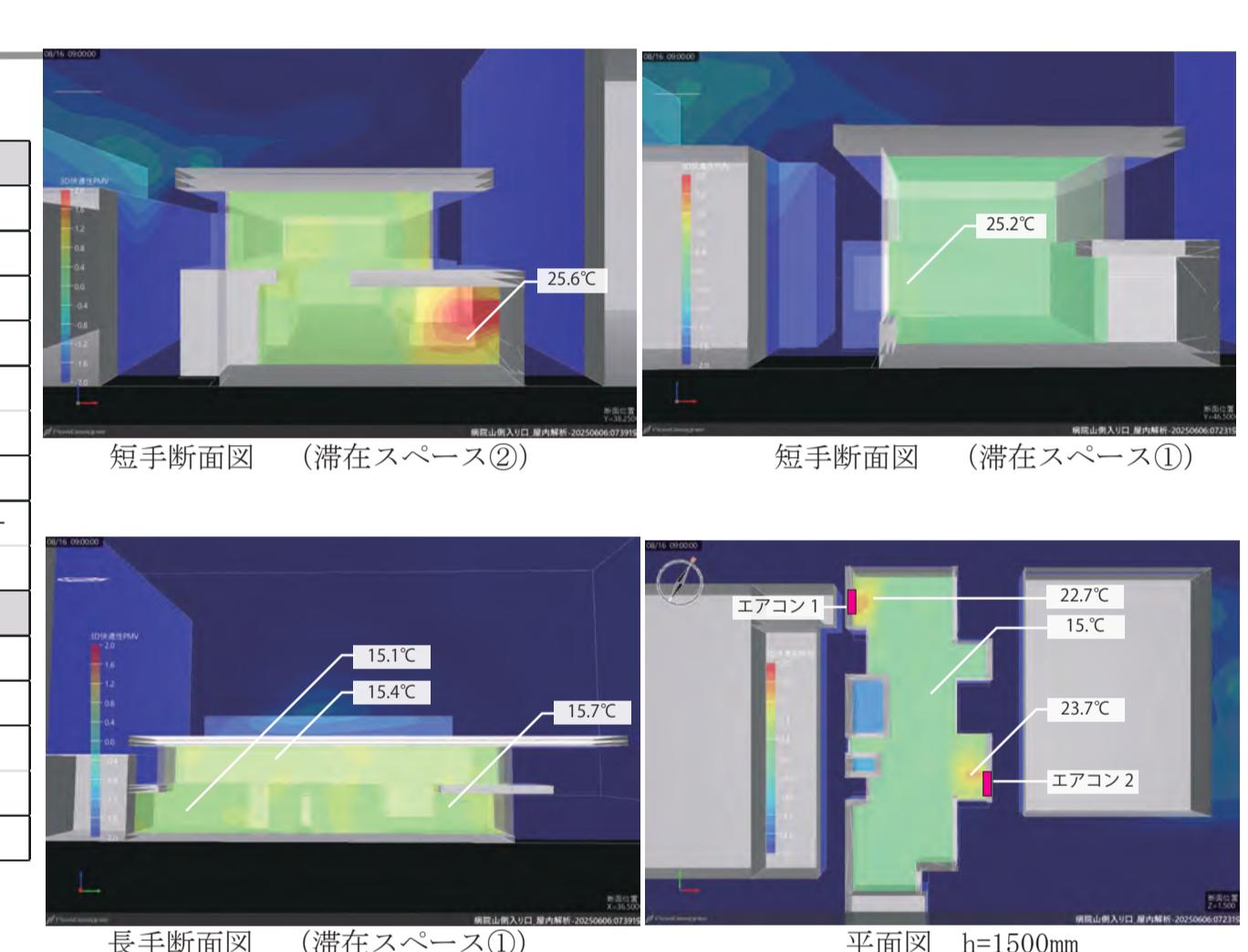
○夏期



○中間期



○冬期



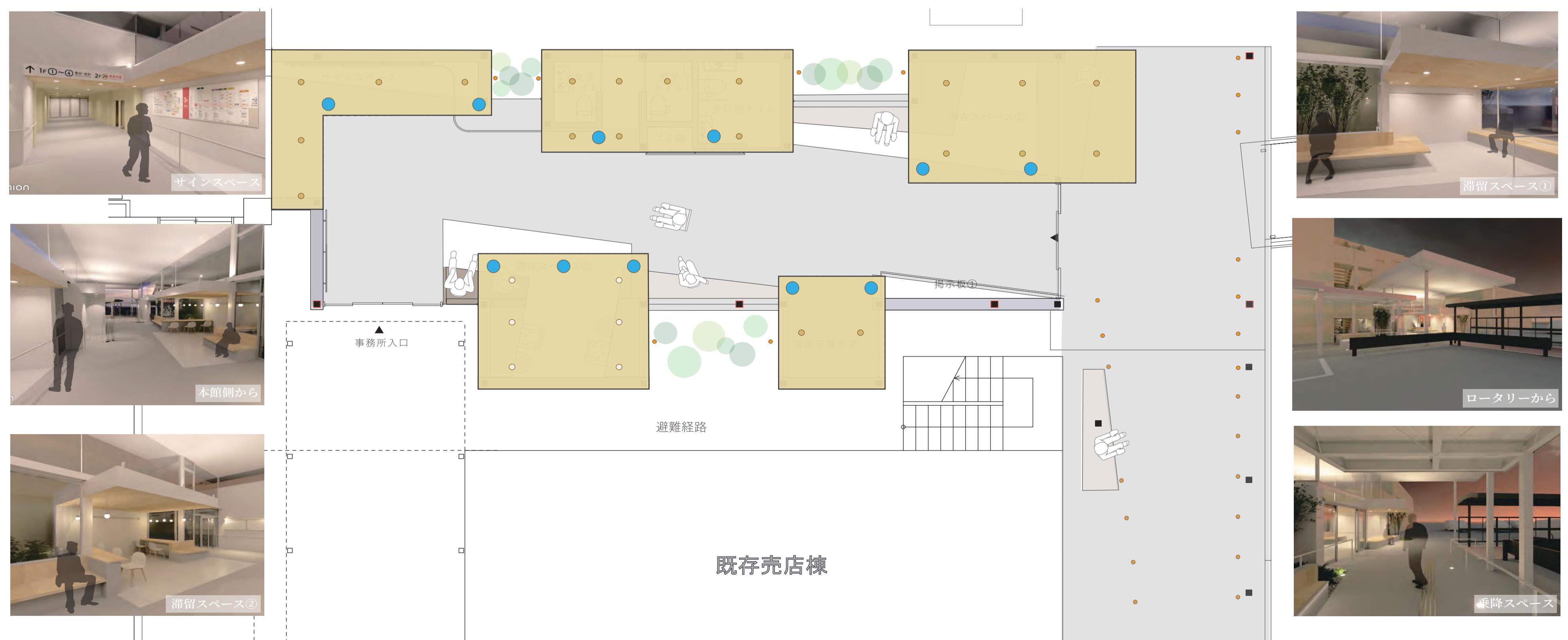
05 照明計画

利用者が居心地のよく滞在できるよう、滞留空間ごとの活動に合わせた照明器具の配置を計画した。

また、仕上げ材による反射を利用して効率よく空間全体を明るくする。

大屋根天井には、小屋根からスポットライトを照射し、反射光で通路スペースを照らす計画とした。

【照明器具イメージ例】

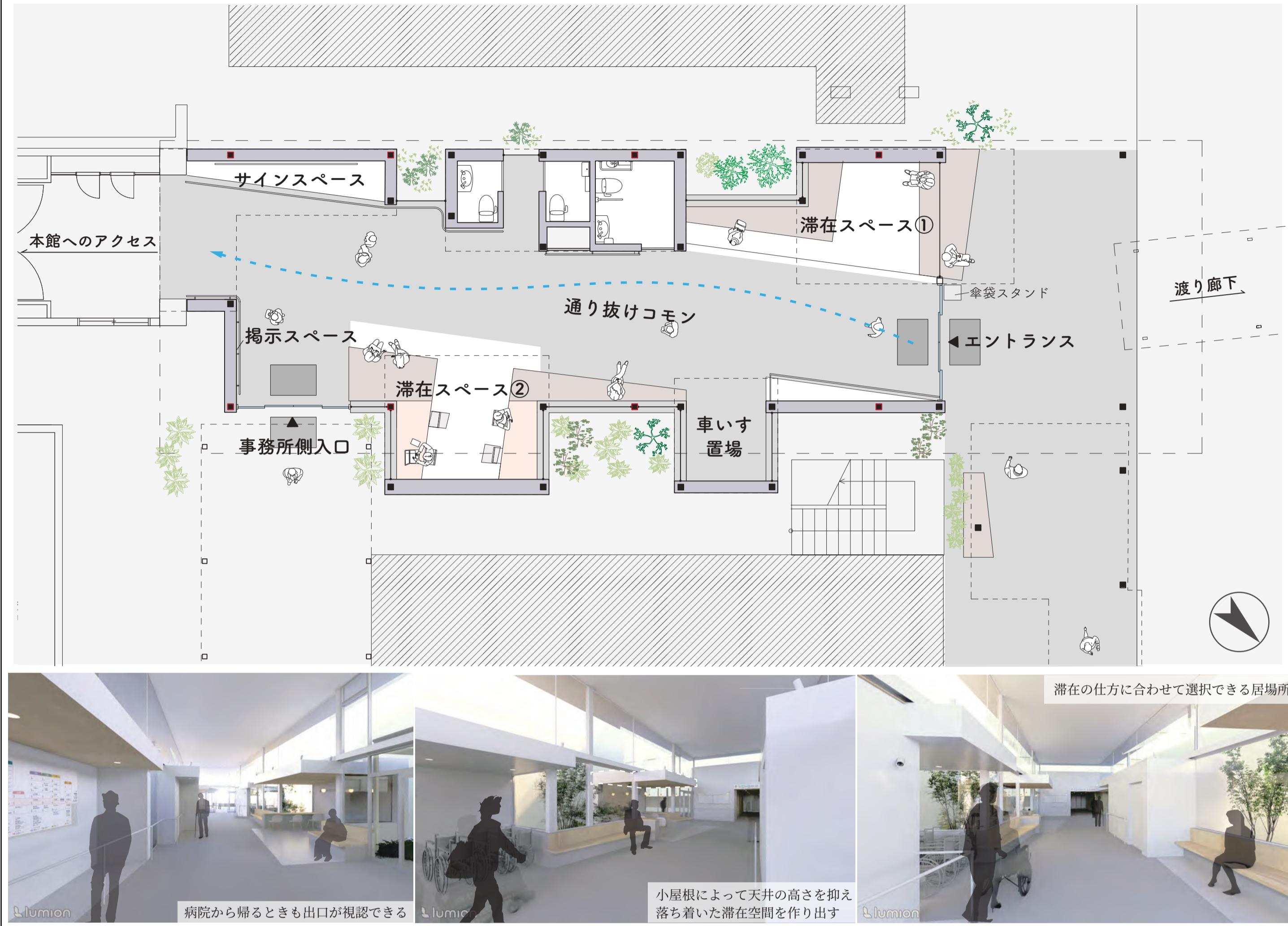


【仕上げ種類】

外壁	樹脂モルタル+光触媒コーティング塗装
内壁	UPウレタン塗装
床	ポリッシュ仕上げコンクリート+浸透性表面硬化剤
天井	ケイカル版+ウレタン塗装

06 平面計画

分散された小屋根のズレによる隙間の空間に中庭を設け、閉鎖的な病院空間に外部との連続性を持たせる。屋根ラインをまたぐ滞在空間により、均質的な空間に多様な居方を生む。



07 断面計画

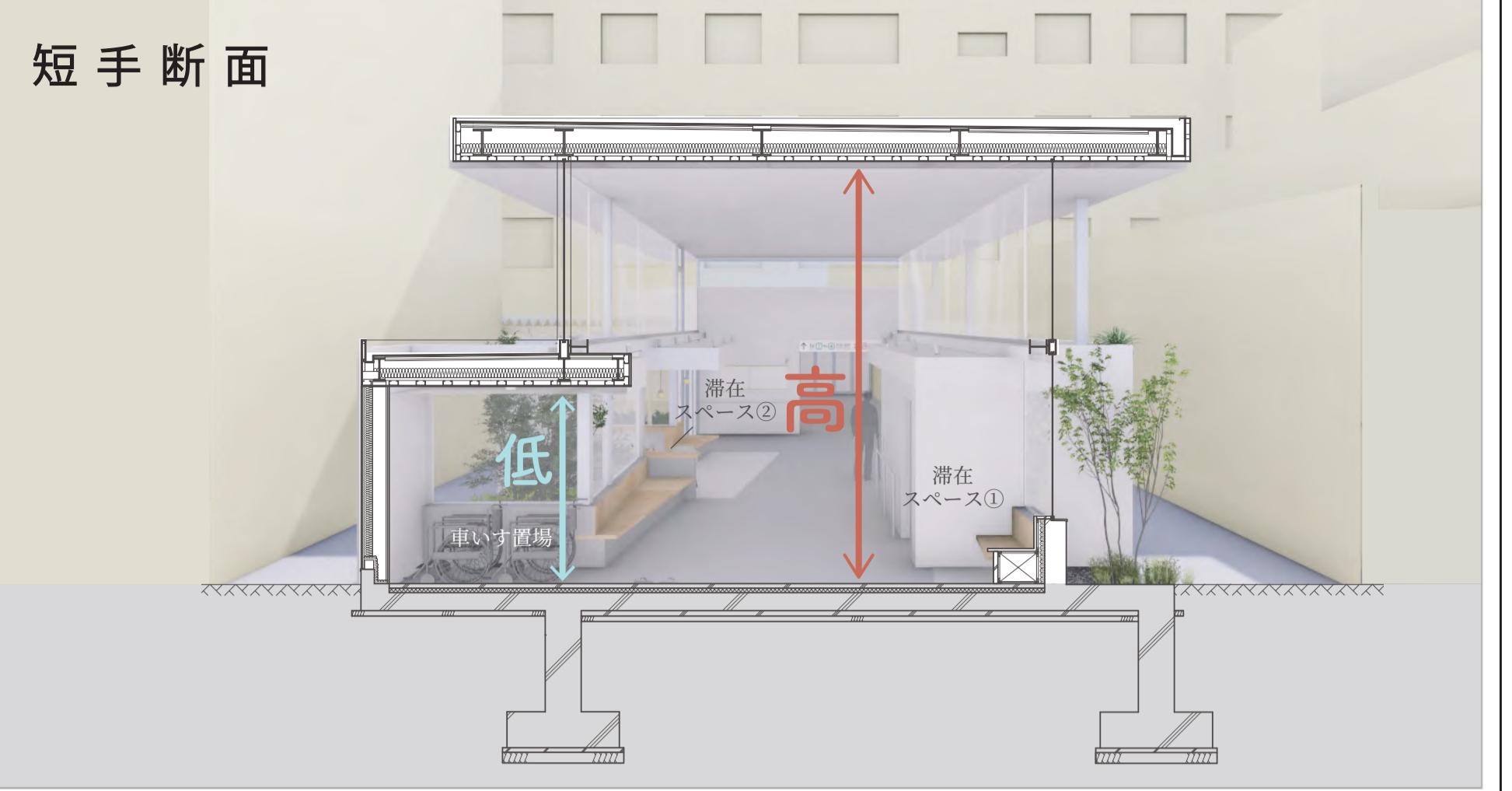
【短手】

・天井高の違う空間を設けることで、1つの空間の中に落ち着いた空間と開放的な空間の両方をつくる。

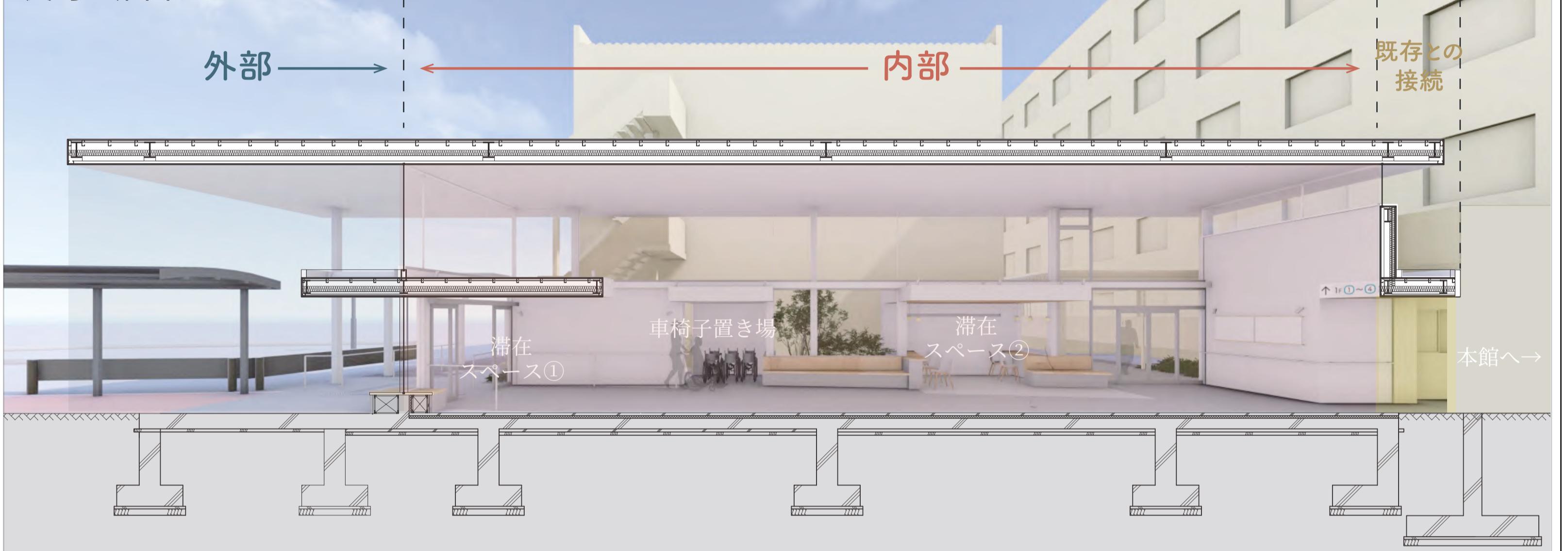
【長手】

・大屋根が内部と外部をつなげ、外部からの採光や空の風景を屋内に取り入れる。

短手断面

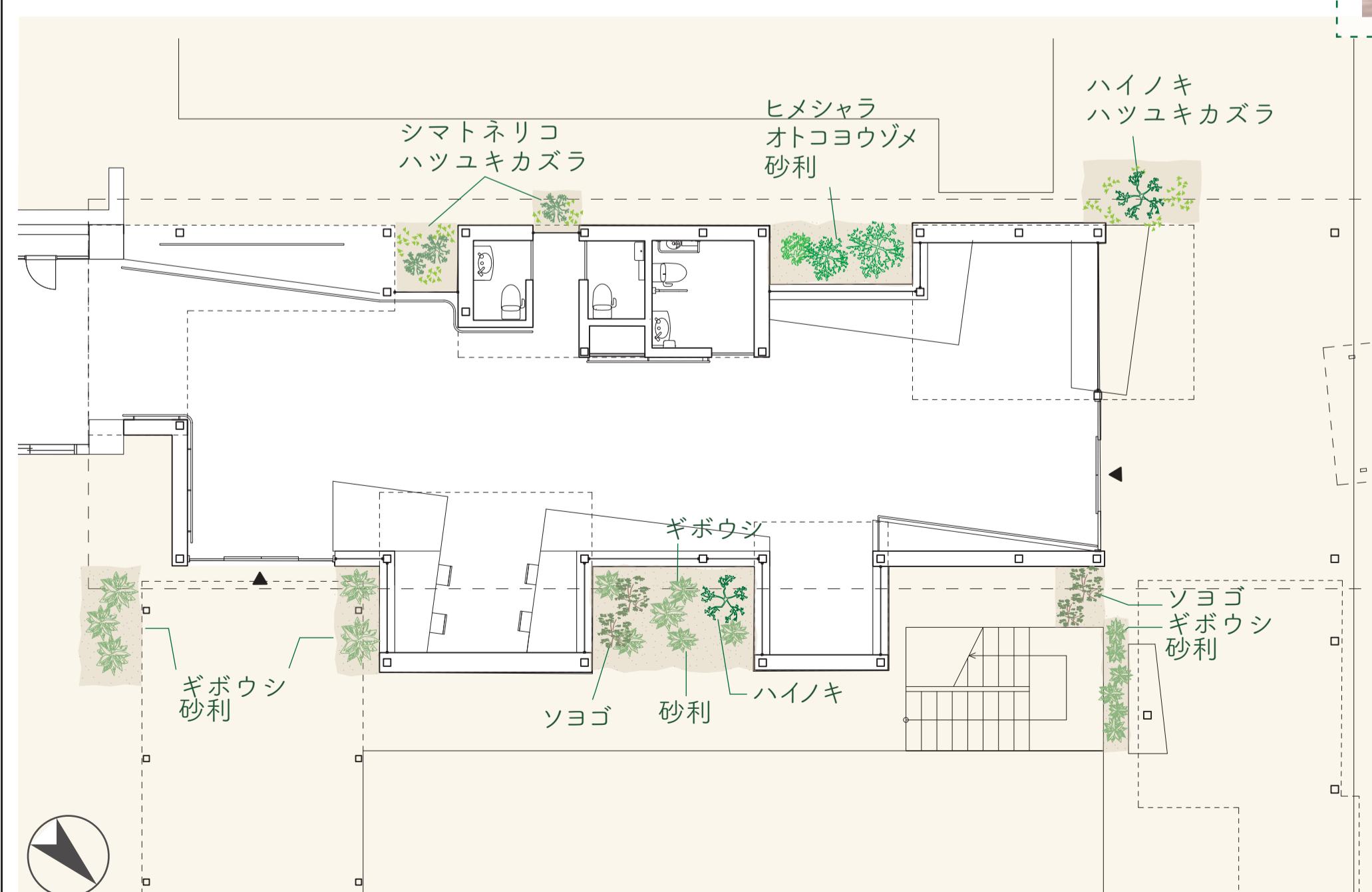


長手断面



08 植栽計画

南側（平面図上部）は、1日を通して日陰、北側（平面図下部）は、反日陰となることから日当たりが悪くても生育できる樹種を配置した。さらに、高低差のある樹種を滞留空間ごとに滞在の仕方や視線の通り抜け、夏季の日あたり等を考慮しながら組み合わせて配置した。



半日陰に適した樹種



日陰に適した樹種

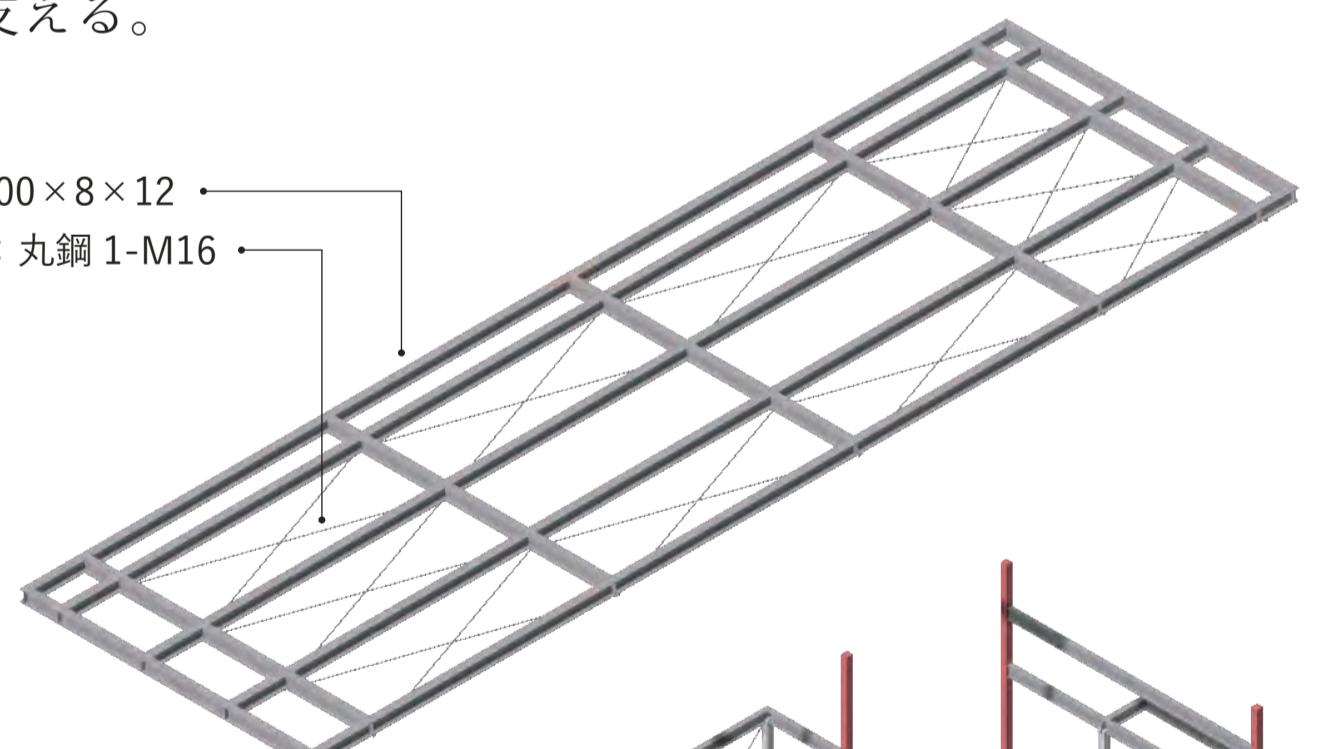


09 構造計画

鉄骨造のラーメン構造を採用し、災害時の機能維持のため、重要度係数は、一般的に公共施設で用いられる、1.5である。小屋根と大屋根ともに150ミリ角の柱で支える。

(大屋根)

梁: H-294×200×8×12
水平プレース: 丸鋼 1-M16



(小屋根)

水平プレース: 丸鋼 1-M16
梁: H-150×150×7×10
柱: □-150×150×9

